

潟 かた

語 がた

り (十四)

文・小西 一三
絵・小西 由紀子

建網たてあみとシジミ貝の思い出

羽立の鈴木龍之介さん(七五)は戦後シベリアに抑留され、自宅に帰ってきたのは昭和二十三年。それから八郎潟が干拓されるまでの間、主に建網による漁をしてきました。現在は九月十日に解禁になる「シラウオ漁」で潟に出るだけ。そんな鈴木さんに話をうかがいました。

真夏のコルタル網づくり

建網で捕れたのはフナ、ウナギ、ボラ、セイゴ、ゲンジなど。干拓前は自宅の五十メートル位先に船着き場があったもんだ。毎年夏になれば思い出すのが、コルタル網づくりだな。昔の網は綿だったんだがら腐りやすかった。それで網にコルタル(コルタル)を染み込ませたもんです。つまり、コルタルを防腐剤として使ってたというわけだ。

暑い日を選んで、家の前で大きい鍋にコルタルを入れて下からどんどん火を焚く。ドロドロになったところで網を入れてよく染み込ませる。それを家の近くで乾かすわけだ。でも、手網だけで十二間もあるもんだがら、大変な作業だったな。ドロドロに溶けたコルタルは強烈な臭いがしたもんだがら、隣り近所には大して迷惑をかけてしまったもんです。でもコルタル網は持ちが良く、順ぐりに使えば三年程は使えたな。

それと忘れられないのは、平成になった頃のシジミの大

漁。当時、俺は車の免許がなくて、せっかくシジミ貝を採っても運搬は知り合いの人に頼んでいた。やっぱり自分で運んだ方が時間のやり繰りが楽なもんだがら、車の免許を取るごどにしたんだ。
なんと、それは六十六歳の時。仕事が休みの冬の間に通ってな、やっとの思いで免許を取った。あの時のシジミの大漁がねがったら、一生、車の免許は持でねがったすべな……。

居間には、こんな写真が何枚も飾られている。→



平成八年十月二日

シジミ漁の網が、今は畑で活躍中。

シジミ貝の時はなんとおもしろがったな。あの時だけ私も一緒に船に乗ったのよ。

